

化学物質リスクアセスメントチェックシート

使用化学物質		沸点(C)	引火点(C)	日付		氏名	
操作概要				追加の安全対策等			

【留意事項】

- 実験をスケールアップした場合、極端にリスクが高くなる場合が多い。できるだけ小スケールで実験すること。スケールアップした場合は、再度アセスメントを実施し、より厳重な安全対策をとること。
- 取扱い温度が高温になれば、一般的に格段にリスクは増大することに留意する。

チェック欄	チェック項目	判断基準	危険性(ハザード)	リスク低減措置						
				実験用一般ゴミ箱に投入しない	保護メガネを着用する	着火源(注1)から遠ざける	周囲に可燃物を置かない。消火方法を確認しておく	緊急シャワー、洗眼器等を確認しておく	局所排気装置(ドラフト等)を使用する	その他
	1つ以上の不明成分を含む廃液・廃棄物の処理、あるいは不明薬品類の処理か?	左に同じ	・加熱、濃縮、衝撃あるいは他の化学物質の添加等により、爆発・火災・有害物質発生の可能性がある。	●	●	●	●	●	○	不明物を含む物質(群)の処理は絶対に自分で行わない。専門の処理業者等に委託する。それまでは冷暗所に保管する。
	爆発性または自己反応性がある物質か?	消防法危険物5類	・エネルギー(熱、衝撃、摩擦など)が加えられた時に、急速に分解し、爆発する可能性がある。 ・空气中に長時間放置すると分解が進み、自然発火するものがある。	●	●	●	●	●	○	・破碎、衝撃、摩擦などの取扱いをしない。 ・加熱を避ける。
	自然発火性または水と反応する物質(禁水性物質)か?	消防法危険物3類	・空気または水と接触することで、ただちに発火や可燃性ガスの生成の可能性がある。 ・周囲に可燃物があると、着火し火災となる可能性がある。	●	●	●	●	●	○	・容器は密閉しておく。 ・空気に接触させない(自然発火性物質)。 ・水と接触させない(禁水性物質)。 ・湿気を遮断し、不活性ガス下で取り扱う。
	可燃性の物質か?	消防法危険物2類	・酸化されやすく、打撃や酸化剤との接触または混合などにより爆発する可能性がある。	●	●	●	●	●	○	・酸化剤など酸化性物質との接触・混合を避ける。
	引火性の物質か?	消防法危険物4類	・蒸気が空気と混合することで、火気(裸火、高温物、火花など)により引火または爆発する可能性がある。	●	●	●	●	●	○	以下に該当する場合、特に注意をする。 ・引火点が室温以下または操作温度以下 ・沸点以上の操作
	酸化性の物質か?	消防法危険物1類または6類	・エネルギーが加わると分解し、酸素を放出し、周囲の可燃物の燃焼を著しく促進する。	●	●	●	●	●	○	
	腐食性の物質か?	GHS分類で「金属腐食性、皮ふ腐食性、眼に対する重篤な損傷性」を有するもの	・皮ふに不可逆/可逆的な損傷を与える(皮ふ腐食性)。最悪の場合、失明する。 ・眼に重篤な/可逆的な損傷を与える(眼に対する重篤な損傷性)。 ・化学反応によって、金属を著しく損傷または破壊する(金属腐食性)。	●	●			●	○	・取扱い時は、不浸透性保護手袋を着用する。 ・ガスの発生するものは局所排気装置(ドラフト等)のもとで取扱う。
	有機溶剤または特定化学物質か?	労働安全衛生法に定める有機溶剤または特定化学物質	・蒸気、ミストまたは粉じんの吸入により健康障害(急性、慢性)を生ずる。	●	●			●	●	・使用時、部屋の換気を十分にする。 ・当該物質を含んだ廃液等についてもできるだけ密閉しておく。
	毒物または劇物か?	毒劇物取締法に定める毒物または劇物	・人体に有害(経口、経気、皮ふ吸収等) ・盗難等の危険性がある。	●	●			●	○	・一般の薬品と区分した保管庫に施錠して保管する。 ・MaCS-NUを用いて、秤量管理する。

(注1) 熱、高温物、火花、裸火、静電気など

●: 必須

○: 必須ではないが、強く推奨される